

(社)日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会  
第 88 回 レベル 1PRA 分科会 議事録

1. 日時 第 88 回 : 2018 年 8 月 27 日 (月) 13:30~17:30

2. 場所 電力中央研究所大手町地区 711 会議室

3. 出席者

(出席委員) 高田主査, 桐本副主査, 橋本幹事, 岡野, 石田, 岩谷, 喜多, 谷川  
小谷, 佐藤 (輝), 黒岩, 塩田 (谷口代理) (12 名)

(常時参加者) 濱口, 佐々木 (野村代理), 磯崎 (根岸代理), 島崎, 三浦 (5 名)

(傍聴者) 佐藤 (遼) (1 名)

(敬称略)

4. 配布資料

P4SC-88-1 第 87 回 L1PRA 分科会議事録 (案)

P4SC-88-2 人事について

P4SC-88-3-1 内の事象 L1PRA 標準 議論検討用

P4SC-88-3-2 適用可能な手順及び実施例 議論検討用

P4SC-88-3-3 内の事象 L1PRA 標準 英文版 (Draft for Review)

P4SC-88-4 内の事象 L1PRA 標準 定例改定中間報告 (案)

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員 12 名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。  
また, 配布された資料が確認された。

(2) 第 87 回議事録の確認

資料 P4SC-88-1 を用いて第 87 回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡いただくこととし, 特になければこのまま正式版とすることとなった。

(3) 人事について

資料 P4SC-88-2 により, 小西常時参加者 (原子力エンジニアリング) の解除が報告され, 新たに池田常時参加者 (原子力エンジニアリング) の登録が承認された。

#### (4) L1PRA 標準統合性能化検討

資料 P4SC-88-3-1 から資料 P4SC-88-3-3 により、L1PRA 標準統合性能化の箇条構成について検討を行なった。前回議論の反映を確認し、主な議論は以下のとおり。

##### ・全般

- －各箇条の検討に整合させ、「タイムウィンドウ」及び「稀有事象近似」（分科会後確認）は用語の定義から削除する。
- －レベル 2PRA とのインターフェイス部分などに関してはレベル 2PRA 標準を引用し、引用規格に追加する。
- －「回復」「修復」は、用語として JIS などの定義も参考として使い分けを明確にする。
- －「方法」「余裕時間」など使用しない用語が残存していないか確認しておく。
- －関連する参考文献は解説 1 などで読めるよう整理する。また、規定中の例示は行なわず、原則として附属書とする。

##### ・箇条 6 プラント状態（POS）の分類及び選定

- －プリ POS やタイムウィンドウなどの手法は附属書とし、両者を合わせ POS 分類の考え方として整理する。
- －デマンド単位となる事象の扱いの妥当性確認は、独立した一項目とする。
- －米国標準要件の反映・規定振りの修正など議論結果を反映する。

##### ・箇条 7 起回事象の選定及び発生頻度の推定

- －起回事象グループ化後の代表事象選定は、グループ化と重複し米国標準からも削除されていることから、項目として削除する。
- －米国標準要件の反映・規定振りの修正など議論結果を反映する。

##### ・箇条 13 事故シーケンスの定量化

- －従前の附属書（規定）の本体化部分では、論理モデルの確認と点推定への要件を合わせ、モデルの確認として一項目とする。
- －点推定の要件の中で、稀有事象近似に関しては評価の実状も考慮し本体規定とせず、技術レポートに移設とする。
- －不確実さ解析における基事象の相関（State-of-knowledge correlation）は、影響検討の事項として規定しておく。

資料 P4SC-88-4 により、今回 L1PRA 標準の改定に関する報告について紹介し、コメントがあれば事務局まで連絡することとなった。今回議論及びコメントを反映し、次回リスク専門部会と標準委員会に中間報告していく。合わせて、標準委員会の規定類の周知について紹介した。

#### (5) スケジュール, その他

次回分科会は 9 月 26 日 PM の予定。

以上